

会
員
寄
稿

“先生なら どうする？ この奇病”

東海学園大学学長 **いしかわ きよし** 清 (S52卒)



専門医も知らない、原因も治療法も分からない、命が危険になる時がある、極めて稀な病気、もしこんな病気にかかったら、先生なら どうする？

この奇病とは、数年来、私がかかっている病気「周期性血小板減少症 CTP:Cyclic Thrombocytopenia」のことだ。

当初、この病名が分かった時、医学的に説明がつかないことから何か霊的なものを感じていた。何か手がかりが得られる方法はないか？と思いついたのは医療情報専門サイトM3への投稿だった。匿名医師“石川五右衛門”の名で“何かの祟りか？ それとも警告か？ 私の奇病”のタイトルで投稿してみた(2022年1月6日)。以下はその抜粋だ。

「私は現在74歳の現役の男性医師である。色々病気は抱えているが、健康には気を付けていて、最近の体調はすこぶる良好だ。しかし、周期的に命の危険を感じる時がある。数年前から健康診断で血小板値が低いのに気付いていた。併せて、時折、手の甲の紫斑が気になっていた。血小板値はしばらくすると正常値に戻るためそのまま放置していた。

しかし、2020年の春、異常な低値となり体中に紫斑が出現したため血液内科を受診した。原因検索のための骨髓穿刺部位からの出血が止まらず、血小板輸血と入院が必要になった。検査結果から血小板が消費されたり、壊されているのではなく血小板だけが作られていなかった。類似の病気の特発性血小板減少性紫斑病(ITP)ではなく原因は分からなかった。

その後、血小板値は正常化し紫斑も消失したため様子観察となった。同じことが何度か続いたため、自分の勤務先で週1回採血をして、血小板値の変動に影響を及ぼすと思われる要因を調べた。毎日の早朝テニスの運動、仕事、食事、服用している薬剤等に変化はなく原因は見つからなかった。ただ周期的に血小板値が変動していることが明らかとなった。文献で調べたら「周期性血小板減少症」という病気があることが分かった。血小板変動の周期は約36日で最低値は1万を切る時がある(図)。この時期には手の甲や四肢に紫斑が出ることから自分で分かり、もし怪我をしたら恐らく止血は難しく致命的になる。

さて、M3読者の皆さんは、私の奇病をどのように捉えますか？ また、医学的に説明できますか？」

この投稿に血液内科医らしき読者から非常に有益なコメントに加えて“データがしっかりしているので論文を書いた方がいい、Lancetでも採用してもらえるかも”との投稿があった。

20年以上医学論文執筆から遠ざかっており、ましてや専門外の領域の論文を書くのは荷が重かった。しかし、“和文の短報くらいなら”と一念発起し、年会費を払って日本血液内科学会に入会し、論文を書くことにした。数回の査読を受けた後、2023年1月号の同学会誌の短報に採択さ

れた「定期的な血小板測定により診断に至った周期性血小板減少症」。これを見た血液内科医からの反応を期待したが、誰からも反応はなかった。自分では研究の対象として、非常に興味深く面白いと思っているが、血液内科医にはあまり関心がないようだ。概月リズムという病態が専門外なのかもしれない。

参考文献の1つにオーストリアのDr. Sabine EichingerのCTPに関する最新の論文がある。「Blood. 2021;137(2) How I manage cyclic thrombocytopenia」病態解明に繋がるかとも思い、彼らにメールで私のデータを送ってみた。彼らからの返答は“血小板変動は極めて教科的で印象的”とあり、彼らの世界中のCTP症例を集めた登録システムに私も一症例として登録された。

自分が世界中で100例に満たない稀な患者というのは信じ難い。多くのCTPがITPと誤診され誤った治療がなされているという報告から、CTPは実際にはもっと多い可能性がある。CTPの病態の解明、ひいては医学の発展に貢献できればと思っている。そのためにはCTPをもっと世間に知らしめる必要がある。

そこで、新聞各社に取材依頼をしてみた。しかし、各新聞社とも特殊すぎて話題性がないためか関心を示さなかった。ただ日頃懇意にしていた中日新聞からだけ取材を受けた。その記事が2023年8月22日の朝刊の「医人伝」に掲載されたが、私の災害救護や国際救援の内容がほとんどで、奇病のことは付け足し程度だった。記事を読んだ知人から“大丈夫ですか？ 大変な病気にかかりましたね”という連絡はあったが、病態の解明に繋がる人からの連絡はなかった。

現在も血小板変動の周期は続いており、時折、命の危険を感じている。一方で、文献では多くの症例が自然緩解するとされ、もし自然緩解すると病態の解明ができなくなることを懸念している。

この奇病にかかったことは、ある意味、試練だが、私に何かをせよとの呼びかけかもしれない。さて、先生なら どうする？

(石川 清 連絡先: ishi@tokaigakuen-u.ac.jp)

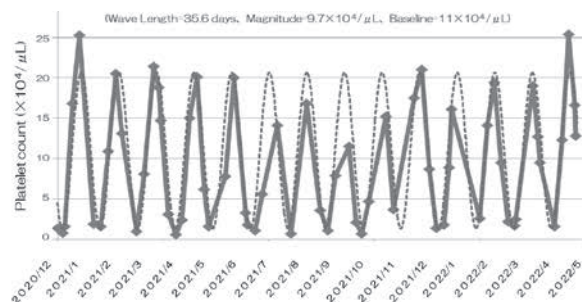


図 血小板値の変動